

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和6年6月20日	
岐阜県 知事 殿	
提出者	
住 所 岐阜県各務原市川島竹早町1	
氏 名 エーザイ株式会社	
川島工場 工場長	
小島 史靖	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0586-89-3121	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	エーザイ株式会社 川島工場
事業場の所在地	岐阜県各務原市川島竹早町1
計画期間	2024年4月1日～2025年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	医薬品製剤の製造及び研究
②事業の規模	延べ床面積 101,438㎡
③従業員数	640名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	①廃油⇒油水分離(委託)⇒溶解(委託)⇒路盤材(委託先) ②廃アルカリ⇒焼却(委託)⇒溶解(委託)⇒路盤材(委託先) ③廃酸⇒中和処理(委託)⇒排水処理(委託先) ④汚泥⇒焼却(委託)⇒溶解(委託)⇒路盤材(委託先) ⇒分級(委託)⇒溶解(委託)⇒路盤材(委託先) ⑤廃プラ⇒破碎(委託)⇒サーマルリサイクル(委託先) ⇒焼却(委託)⇒溶解(委託)⇒路盤材(委託先) ⑥木くず⇒破碎(委託)⇒サーマルリサイクル(委託先) ⑦ガラス⇒破碎(委託)⇒ガラス精製(委託先)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

- ①本社 総務環境安全部担当執行役 総括責任者
↓
②本社 総務環境安全部環境安全Gr課長 総括責任者 (副)
↓
③川島工場 工園長 事業所の環境関連の最高責任者
↓
④川島工場 設備環境安全グループ課長 廃棄物管理責任者
↓
⑤川島工場 設備環境安全担当者 (マニユフスト発行、特別管理産業廃棄物責任者)
↓
⑥株式会社サンプラネット 施設グループ (関連会社の廃棄物管理の委託先)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 2023年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	廃油	廃アルカリ	廃酸	汚泥	廃プラ	木くず	ガラス
	排出量	577.7t	457.1t	4.8t	355.6 t	129.7t	6.9t	2.0 t
	(これまでに実施した取組) 検証により洗浄頻度を評価し、適切な洗浄回数に変更したことで廃油（洗浄廃液量）が削減した。							
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	廃油	廃アルカリ	廃酸	汚泥	廃プラ	木くず	ガラス
	排出量	800t	300t	4.5t	500.0 t	128t	6.5t	2.0 t
	(今後実施する予定の取組) 昨年度10月より稼働開始した研究棟からの廃液発生 of 適正化を図る。							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 構内にあるリサイクルセンター (1次保管置場) にて各組織から分別れて搬出された廃棄物を収納保管する。各組織からは廃棄物願いの申請があり適切に分別されていないとリサイクルセンターでの受け入れをしない徹底した管理している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) PTPシート屑をこれまでサーマルリサイクル化してきたがアルミとプラに分離し、それぞれをマテリアルリサイクルする新規産廃会社と契約し取引を開始する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2023 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属	プラスチック
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	157.2 t	9.1 t
	（これまでに実施した取組） 金属及び汚れのないプラスチック（容器等）は分別し有価売却している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属	プラスチック
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	130 t	9.2 t
	（今後実施する予定の取組） 現状維持する。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	116.4 t	t
	（これまでに実施した取組） 排水処理の脱水汚泥は継続して乾燥機能により減量化する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	115.0 t	t
	（今後実施する予定の取組） 排水処理の活性汚泥は継続して乾燥機能により減量化する。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2023年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	廃油	廃アルカリ	廃酸	汚泥	廃プラ	木くず	ガラス
	全処理委託量	577.7t	457.1t	4.8t	355.6t	129.7t	6.9t	2.0t
	優良認定処理業者への 処理委託量	577.7t	457.1t	4.8t	355.6t	129.7t	0	2.0t
	再生利用業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	6.9t	0
	認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0	0	0	0	0		0
（これまでに実施した取組）								
優良認定処理業者をメインとした委託契約を継続し、ゼロエミを達成していく。								

②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	廃油	廃アルカリ	廃酸	汚泥	廃プラ	木くず	ガラス
	全処理委託量	800.0t	300.0t	4.5 t	500.0t	128.0t	6.5t	2.0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	800.0t	300.0t	4.5 t	500.0t	98t	0	2.0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0	0	0	0	30t	6.5t	0
	認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0
	(今後実施する予定の取組) ゼロエミ達成を継続する。							
※事務処理欄								

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。